

日本臨床漢方医学会会報

理事長の挨拶	理事長 渡辺 賢治	P.2
第18回講演会「漢方の保険診療について」	あきば伝統医学クリニック院長 秋葉 哲生	P.4
第3回 日本漢方 国際シンポジウム報告	理事長 渡辺 賢治	P.12
平成27年 年間報告		P.14
事務局からのお知らせ		P.18
編集後記		P.19
変更届 および 資料請求届		巻末

第3回 日本漢方 国際シンポジウム報告

理事長 渡辺 賢治

2015年6月19日 オーストリアのウィーンの中心地にあるホテル・ド・フランスで、第3回 日本漢方 国際シンポジウム報告が開催された。

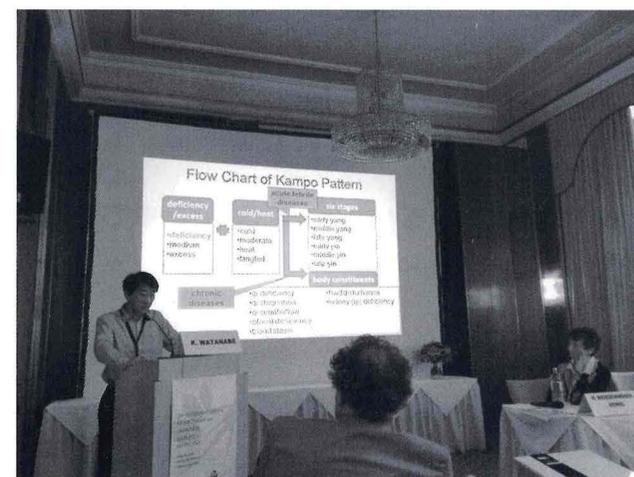
主催は、国際日本漢方医学協会であるが、この会は2009年に東京で結成され、第1回の国際シンポジウムは2011年にミュンヘンでハイデルン・ライセンウェバー先生を会頭に、第2回は2013年にロンドンでグレティヘン・ソリアーノ先生を会頭に開催され、今回はウィーンの漢方医師ベルンド・コストナー先生を会頭に開催された。



当日は、オーストリア、ドイツ、スペイン、英国、米国など8カ国から80人が参加して日本漢方に関する発表と熱心な討論が行われた。日本からも15名ほどが参加し、国際会議を楽しんだ。

プログラムは4つのセッションに分かれ、セッションAは漢方の歴史と文化人類学的視点、セッションBは漢方の基礎と臨床、セッションC セッションDは漢方の国際的視点というテーマで行われた。

日本からは北里大学の及川哲郎先生、小田口浩先生、久留米大学の橋詰直樹先生、金沢大学の小川恵子先生、金沢医科大学の元雄良治先生、それに慶應義塾大学からは、渡辺と吉野鉄大先生が口頭発表した他、ポスターセッションでは、千葉大学の並木隆雄先生、愛媛県立中央病院の山岡傳一郎先生らが発表した。



海外では中医学の浸透が大きい一方、日本漢方の存在は極めて希薄である。

そうした中であって、ドイツのハイデルン・ライセンウェバー先生、シルケ・キャメロン先生、スペインのウーリッヒ・エバハルト先生、英国のグレティヘン・ソリアーノ先生、ブラジルの秋山一誠先生、米国のグレゴリー・プロニコフ先生など、日本で漢方医学を勉強し海外で広めている医師達の存在と活躍は貴重なものである。

日本からの支援は彼ら海外で漢方医療を推進する者にとって貴重なものであり、金銭面のみならず、学術的支援や情報提供などさまざまな面で連携していくことが漢方の国際化を推進するものと期待する。

理事長 渡辺 賢治